

**答** 貸し付けの必要が今年度末にも生じるのであれば、議員の皆さん方をお願いするかもしれないが、半年自助努力の中でそれをしないで済むよう一取締役として考えている。

## イノシシ捕獲対策を早く！

**問** 和水町内にイノシシの被害が多発しているが、町の予算も含めて現在どんな駆除対策が取られているか。

**答** 区長、農協から有害鳥獣駆除の申請を受け、駆除隊に依頼し縄及び猟銃による駆除を実施している。駆除隊は三加和地区に猟友会が12名、菊水地区に12名、町からの補助金三加和地区15万円、菊水地区15万円、箱縄等購入費9万2千円補助している。イノシシ駆除は9月から10月まで実施中、三加和地区は年間通して実施。捕獲実施は17年度、三加和地区9回でイノシシ36頭、うさぎ3羽、菊水地区イノシシ1頭、カラス44

羽、土鳩148羽が捕獲されている。

## 本町の有害鳥獣被害について

**問** イノシシの被害は三加和の方が多く、山道の両端を掘り起こしており、セメント舗装道路の斜面の下をほじくっている。ミミズなどエサを求めている、崖が削り取られているため大雨が降った場合崩れていく可能性がある。町として駆除対策を取らないと財政的に今後もっと大変になってくる。他町ではイノシシ捕獲1頭にに対し、5千円から1万5千円の補助金を出している所もある。一人で1年間に2百頭も捕獲している人もある。町として検討を。

**答** 十分検討いたします。



荒木 拓馬議員

**問** 我が町の農業者にとって

秋の収穫期を控え、深刻な問題となっているのがイノシシによる農作物に対する被害であります。被害はみかん、栗、水稻、サンマイなどで、その他タケノコや野菜類にも被害がおよんでいる現状であります。この様な中、個人的な対応策としては、トタンを張ったり、柵をつくったり、ラジオを一晚中鳴らせるとか、髪の毛を周囲に蒔くとか、その他忌避材的なものを蒔くなど、それらの効果はまちまちというところで、被害防止策に

対しこれといった決め手がないのが現状のところなんです。そのような中電気柵はある程度の効果を出しているとのことであります。一方猟友会の銃や箱罠、その他の罠による捕獲、駆除対策が行われているようであるが、現時点での被害状況と駆除対策、そして今後の町としての対応を伺う。

**答** 本町においての平成17年度農業共済で、イノシシによる水稻被害が菊水地域で5反4畝、三加和地区で3町7反ほどの被害届が出て、共済

金額で計84万4千円になっている。駆除対策として町としてはその都度駆除隊に捕獲を要請依頼している、しかし駆除隊のみに依頼しても限界があるので、イノシシの習性などの様々な情報、被害を未然に防ぐための対策、農家自身の自己防衛手段など、農家に

対する情報の周知をこれまで以上推進していく必要があると思う。また中山間地等の直接支払いの実施区域においては、その交付金の活用による地域での電気柵等の設置を考えていただければと思っています。

**問** 近隣の市町や猟友会同志とか町民の方々の相互の連絡や情報交換や対策会議等、一体となった形の中で被害、駆除対策を進めていかないと、効果的な対策につながらないと考えるが、これについて町の考えを伺う。

**又、個人で罠の資格を持っておられる方も3、4名おられるがその方々の資格取得料や箱罠等の代金もかかってくるものであり、電牧も5百メートルで7**

## 常任委員会視察研修報告

総務文教常任委員会研修

委員長 杉本 和彰

8月8日、9日の2日間、八代八竜小学校の統合視察と併せて、あさぎり町の行財政計画並びに学校規模等適正化審議会等の取り組みについて研修を行った。

出席者は、総務文教常任委員6名と職員7名合計13名で、八代市坂本支所を主会場に、八つの小学校が統合され開校した。『八竜小学校』を現地に視察し、旧坂本村の長年の懸案であった全村一校統合推進運動の



めが利かない状態が続いており高齢化率が43・3%である。8小学校が統合され八竜小学校となっている。児童減少に伴う複式学級の解消が目的で7校については、2003年4月開校。残る1校については1996年に新築されており国庫補助の関係で10年間は転用できないことになっており、2年遅れて統合されている。八竜小学校は、木造一部二階建ての校舎や体育館またプール建設費を含めると総事業費は約15億円である。

②あさぎり町の町長と総務課長からの説明を受ける。  
（小・中学校統合教育計画策定審議会が検討を重ねている。○通学方法部会 ○制服・校章部会 ○校名・校歌部会の3部会）  
夏祭り事業、社会福祉協議会運営補助金、公営住宅建設事業など、職員数の削減、平成22年まで行う予定であるが、18年度の効果額8千万円、臨時・非常勤職員の削減また業務委託など、給与制度の改定、特別職手当の改定、非常勤特別職・議員の報酬の改定、職員提案制度の創設、課の統合・再編、人事評価制度の実施等、事務事業評議の実施、区長報酬の見直し・区の再編、町立中学校の適正規模に關して、学校規模適正化審議会経過・教育委員会の取り組み、条例等

## 建設経済常任委員会研修報告

委員長 北原 芳史

7月20日、21日の2日間、建設経済常任委員5名と職員4名合計9名で、平成19年夏までに完成予定の熊本・天草幹線道路（松島から有明までの13・3キロの高規格道路の建設工事現場）を天草地域振興局土木部の案内で視察を行いました。熊本・天草幹線道路は、熊本市と本渡市を結ぶ延長約70kmの間に計画されており、熊本市と県内主要都市を90分で結ぶ構想（90分構想）の実現に必要な道路計画となっています。平成十四年五月には、その一部である松島有料道路（3・3km）を供用開始し、現在平成十八年度完成をめざして、上天草市松島町知十から有明上津浦までの10kmを整備中であります。また、三角から大矢野間及び本渡市区間は、調査区間となっており、今後の整備に向けての準備が進められて



ですが、今後新しい幹線道路が完了するとすれば、天草地域の再生に大きく連動するものと確信しながら研修を終えました。

## 厚生常任委員会研修報告

副委員長 笹刈 賢吾

8月17日と18日の2日間佐賀市と唐津市に、厚生常任委員5名と町職員5名合計10名により病院と特別養護老人ホームの視察研修を行いました。

17日の佐賀市富士大和温泉病院は、平成17年10月1日に佐賀市、諸富町、大和町、富士、三瀬村が合併し佐賀市立病院として開設しています。最初は昭和23年に4月1日に無医村に三村の共立病院を開設し、58年間山間地住民の命と健康を守ってきました。診療科目は内科、外科、整形外科、眼科、消化器科、循環器科、呼吸器科、リハビリテーション科、放射線科、人工透析があり、常勤医師は7名で佐賀大学から来ているとのこと。病床数は98床、そのうち一般急性期病床は54床、医療型療養病床は44床で入浴施設は熊の川温泉

8万円すると言うことで何らかの町の補助は考えられないか伺う。

**答** 農作物に対する被害と言うことでそれに対しJAの方でそのイノシシ対策に対し、対策組織を考えていただき、それに行政として助成、お手伝いをしていくというような形が取れないかと今感じている。今回自分もイノシシ対策に関しこれほど大きなものかと改めて思っている。やはりこの対策に関してはJAの方の組織の中で十分な対策を講じていくように相談してまいりたいと思います。



イノシシ駆除

合併しても佐賀市内の民間病院との関係があり、診療圏は合併前と同じ富士町と大和町の地域住民が対象となり、高齢化、過疎化の地域で患者数は減少している。地元の人に頼れる病院、自分たちの病院という意識を地域住民に持つてもらい信頼される病院を目指しているとのことでした。  
18日の「唐津市民病院きたはた」と「特別養護老人ホームちぐさの」は隣りあわせて病院は昨年4月新築移転したそうです。唐津市は平成17年1月に唐津市、肥前町、鎮西町、呼子町、北波多村、厳木町、相知町が合併しています。きたはた病院の診療科目は内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、人工透析があり、常勤医師は6名で佐賀大学と筑波大学からです。病床数は56床全床医療型療養